

2022年度 病児・病後児保育もくれん 事業報告

1. 職員配置

看護師1名、保育士1名を常駐させ、保護者からの受付と病児への対応を行った。病児が複数になった場合等は、あらかじめ登録している看護師2名、保育士1名の中から選別し、その対応にあたった。当事業に対して利用者からの要望・苦情等は特になかった。

2. 業務責任者

児童家庭支援センターオリーブの木 センター長補佐 若杉篤が業務責任者としてあたった。

3. 医療機関等との連携

指導医については、小児科医「山田クリニック」に依頼し、協定を締結。
緊急時の協力医療機関については、水俣市総合医療センターに依頼し、協定を締結。

4. 安全面・衛生面の配慮事項

常駐の看護師を中心に、その専門性により、アセスメントを強化し、感染や悪化の防止を図った。
環境設備については、保育室2室と観察室（安静室）を1室用意し、症状による個別対応を図り、感染を防いだ。玩具や備品の消毒・滅菌するため滅菌庫や消毒設備を使用した。
新型コロナウイルス感染症対策として、ウイルス対応型空気清浄機を各部屋で使用し、玄関に非接触サーモグラフィー体温測定器を設置した。

5. 事故防止対策

外部からの侵入防止と送迎者の確認については、玄関にカメラ付きインターフォンを設置し確認を行うと共に
お預かり・お迎えの際の児童の体調管理やアセスメントを徹底した。
児童の外出・階段転落防止については、各部屋と階段前に外出防止柵を設置した。

6. 事故発生時の対応

連絡体制・避難誘導・対応マニュアルについては、児童養護施設光明童園及び児童発達支援センターにここが隣接しているため、同様のものを用いて対応を図った。
損害賠償保険に加入。

7. 利用者（保護者）への対応

児童の健康状態の管理体制については、「病児預かり記録」や医療機関からの「連絡票」、利用者からの聴き取り等を徹底し管理した。
保護者への対応については、利用受付や送迎の際に、綿密なコミュニケーションをとり対応した。
個人情報の管理方法については、書類棚の施錠の徹底、パソコン使用時のパスワード設定、職員への指導（就業規則に基づく個人情報保護規程「個人情報保護誓約書」等）を行った。

8. 事業運営の向上及び職員の質の向上

2週ごとにスタッフ会議を行い、利用者や仕事内容の共有・改善、行事企画などの広報活動にも力を入れた。
コロナ禍のため、オンライン開催の研修参加を主とし4回（8月、10月、11月に2回）行った。
1型糖尿病罹患児童の利用申込があったため、児童が掛かっている医療機関スタッフより低血糖時の基本的な

対処方法について説明を受け、利用開始にむけた準備を行った。

9. 広報活動

利用者がいない場合には、もくれん便りを作成し、保育所、こども園、幼稚園、学童への配布をおこなった。毎月第3土曜日に地域貢献活動の一環として子ども地域食堂ポパイにスタッフが参加し、育児を行っている世代でまだ未利用の世帯にも病児保育の取組があることを掲示物等を使い周知広報に努めた。関心がある世帯には随時予約を取り見学会に来ていただく形式で対応した。

10. 利用状況

月	利用数
4	0人
5	6人
6	4人
7	9人
8	4人
9	5人
10	20人
11	6人
12	10人
1	8人
2	17人
3	28人
計	117人